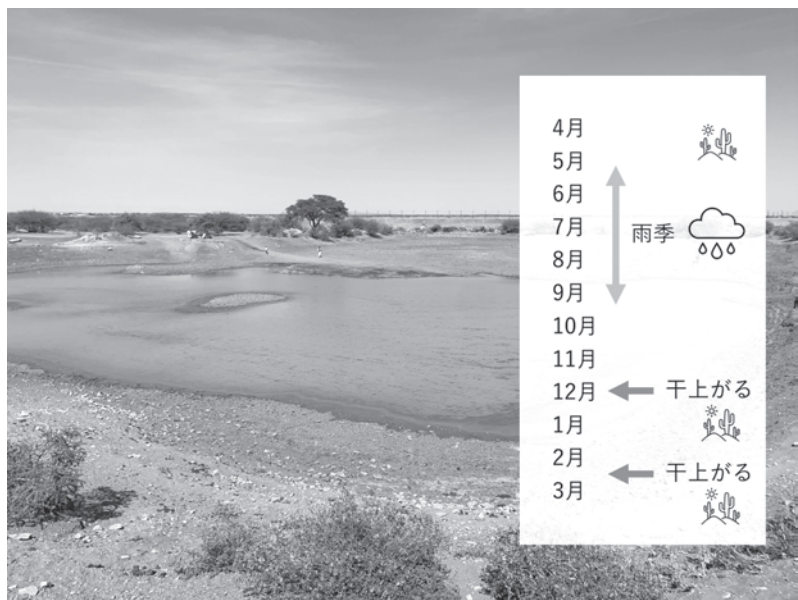




試掘を依頼している様子。足元の石は掘るラインの仮置き

建設会社のメンバーと事業地の訪問

スーダン政治情勢やコロナ感染症の流行でたびたび事業を中断せざるを得なかったハフィール（ため池）改修事業。2021年に駐在員がスーダンに戻ってから事業を再開し、この度本格的な掘削が始まりました！

2018年にロシナンテスが建設した村の診療所の運営を軌道にのせ、人々の健康と衛生状態を良くするために、ロシナンテスはウッド・シュウエイン村でハフィール改修事業に取り組んできました。

現在のハフィールが乾季に干上がってしまう大きな要因は深さが足りないことなのですが、ハフィール建設当時、途中で下に固い岩盤が見つかり十分な深さまで掘れなかったそうです。念のため行った再調査でも、やはり地盤が固く、さらに深掘りするには高額な費用がかかってしまうことが分かっていました。そのため、まず掘削できる場所を探すことから始めました。

試掘の結果に基づいてアリスさんが作成したハフィール改修プランでは、現在のハフィールのすぐ横に4メートルの深さのハフィールを掘ります。浅く広いハフィールだと水がすぐに蒸発してしまいがすが、ハフィールの深さを出すことで、蒸発量を抑えつつ水量を増やすことができます。

アリスさんが作成したハフィールの改修デザイン案をもとに、入札を実施。技術経験と提示金額を照らし合わせて最も良いと判断された建設会社と契約を結びました。



《第27号》
認定NPO法人ロシナンテス 発行
〒802-0082
北九州市小倉北区古船場町1-35
北九州市立商工貿易会館 7F
TEL:093-521-6470
E-Mail:info@rocinantes.org
特定非営利活動法人ロシナンテス ROCINANTES

これまでの進捗 ①
地質調査
現在のハフィールが乾季に干上がってしまう大きな要因は深さが足りないことなのですが、ハフィール建設当時、途中で下に固い岩盤が見つかり十分な深さまで掘れなかったそうです。念のため行った再調査でも、やはり地盤が固く、さらに深掘りするには高額な費用がかかってしまうことが分かっていました。そのため、まず掘削できる場所を探すことから始めました。

これまでの進捗 ②
改修内容の確定
試掘の結果に基づいてアリスさんが作成したハフィール改修プランでは、現在のハフィールのすぐ横に4メートルの深さのハフィールを掘ります。浅く広いハフィールだと水がすぐに蒸発してしまいがすが、ハフィールの深さを出すことで、蒸発量を抑えつつ水量を増やすことができます。

これまでの進捗 ③
掘削開始
アリスさんが作成したハフィールの改修デザイン案をもとに、入札を実施。技術経験と提示金額を照らし合わせて最も良いと判断された建設会社と契約を結びました。

事務局だより
こんにちは、北九州本部の塩田です。電話の最後にいつも「一緒にがんばりましょう!」と言ってくれる支援者の方がいます。その言葉はいつも私の心を軽くしてくれます。支援者の方たちも私たちと同じ方向を向いて一緒にがんばってくださっているんだと改めて気づかせてくれます。立場や環境はそれぞれ違っても、同じ方向を向いて共に歩いて行ける仲間がいるということはとても幸せなことです。予測不能な出来事に翻弄され、思うように生活ができない今、私もその方のように誰かの心を軽くできる存在でありたいと思う今日この頃です。皆さん、一緒にがんばりましょう！

私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドンキホーテ」に出てくるドンキホーテが乗る痩せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は痩せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテになれば、きっと何かできるはずだ!」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。
今後ともこれを信念として一歩一歩進んでいきたいと考えておりますので、皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

ロシナンテス応援企業
内科・外科・消化器内科・緩和ケア内科
医療法人 明気会
岩本クリニック
理事長 岩本拓也
北九州市小倉南区中貫一丁目20-50
TEL 093-472-1281
FAX 093-472-6712

がんばれロシナンテス!
税理士法人
小城会計事務所
北海道旭川市東光8条1丁目1-1
TEL.0166-31-2313

内科/消化器内科/リウマチ科
柏木内科医院
院長 柏木 陽一郎
〒802-0064 福岡県北九州市小倉北区片野2-21-10
tel 093-921-7943 / http://www.kashiwagi-naika.com/

ロシナンテスのスタッフを応援します!!
日常の事業活動の利益をNPO活動の篤志へ繋げたい
時計宝飾・古物売買
株式会社 ブランドリーネ
代表取締役 青山晃一
〒276-0046
千葉県八千代市大和田新田355-16-103
TEL:047-450-5720
yachiyo@e-daikoku.com
https://shop.e-daikoku.com/info/spot/detail?code=0000000239

「法人寄付」制度を整備いたしました！

これまで法人の皆さまからご支援をいただいた場合、基本的には個人のご支援者の皆さまと変わらず、領収書と年3回の報告書送付の対応とさせていただきます。別送ご要望があった場合には、感謝状の送付や訪問での活動のご報告を行ってまいりました。今回は、ご要望の有無に関わらずこうした機会を提供できるよう、事務局の体制と合わせて制度を整備いたしました。もちろん右記の他にも、それぞれの法人の皆さまの理念や事業に合った協働の機会・参加方法をご提案し、皆さまの想いを現地へ届けられるよう尽力してまいります。



寄付以外にも、それぞれの組織に合った方法でご協力いただけます

寄付で協力

寄付する
寄付つき商品を扱う
イベントで寄付を集める
募金箱を設置する

人で協力

ボランティア
広報・マーケティング等の
コンサルティング協力

物・サービスで協力

本業を通じた支援
物品支援
講演を依頼する

法人寄付制度の詳細はウェブサイトでご確認いただけます。
<https://www.rocinantes.org/support/corporate/>
もしくはロシナンテスまでお気軽にお問い合わせください。

ご住所の変更はございませんか？ ご住所が変わった場合は下記のいずれかの方法でお知らせください。

A ホームページ

①ロシナンテスのウェブサイトへアクセス
②画面上部、「各種情報変更」をクリック
③6つのボックスの左上「情報変更フォーム」をクリック
④必須入力項目と情報変更したい箇所にご入力いただき「確認画面へ」を押下
⑤内容をご確認の上、「送信」をクリック

B メール

①ロシナンテス宛にメールをお送りください。
✉info@rocinantes.org
②以下の各項目の記載をお願いいたします。
メール件名:「住所変更」
・お名前・お名前(ふりがな)
・旧住所・新住所

C お電話

①093-521-6470まで
お電話ください。
(電話受付:平日10:00~17:00)
093-521-6470

その他、お電話番号やメールアドレス等の各種変更についても、それぞれ変更前・後の情報を上記いずれかの方法にてお知らせください。お手続きについてご不明点等ございましたらお気軽にお問い合わせ下さい。



ハファイル改修で 目指すこと

このハファイル改修によって、次に挙げるような効果を期待しています。

- 安全で清潔な水へのアクセスができる村の人々と家畜の数が増加する
- 村の人々の水衛生や健康維持に関する知識が向上する
- 水委員会を中心とした村の住民がハファイルの維持運営を継続的に行えるようになる
- 村の診療所運営が軌道にのり、人々の医療アクセスが向上する

村の人々からも、新しいハファイルができれば、水汲みにかかる時間や労力が少なくなるので子供たちが勉強にもっと集中できる、生活に必要な水を買うための経済的な負担が減らせる、収穫でき



今はきれいな水を手に入れるのに時間がかる。たくさん勉強して、将来は村のために水の技術者になりたい。(ムハンマドくん10歳)



「小学生くらいの子どもたちが、大きなポリバケツに水を汲みハファイルとロバの間を何往復もしている様子を直接見て、本当に重労働であることを改めて感じました。ハファイルの中に入ったり、ふちの部分から身を乗り出したりして水を汲んでいるため、いつ足を滑らせてもおかしくないなとひやひやする場面もありました。水汲みが簡単になればもっとたくさん勉強できるようになる！」と喜んでくれたムハンマドくんのためにも、1日も早く改修できるよう引き続き尽力していきます。(駐在員池田)



る作物が多くなり村の現金収入が増えるなど、さまざまな期待が寄せられています。

2022年3月中旬からハファイルの掘削を始め、6月の雨季が始まる前までに完成を目指しています。

医療従事者を守りより良い治療を続けるために
風に立つライオン基金様提供の防護服・マスクを寄贈



州保健省での受領の様子

新型コロナウイルス対策のため、風に立つライオン基金様から防護服(タイベック)200枚とKN95マスク3000枚をご寄贈いただきました。スーダン国内で一番感染者の多い首都ハルツーム州で、保健省から優先度が高いと要請があった2つの隔離センターに寄贈を行いました。

新型コロナウイルスの影響を受け、通常に比べて日本からの輸送に時間を要しましたが、2021年12月にスーダンで受け取ることができました。

寄贈先/ジャブラ救急病院・オンドルマン教育病院
2つの隔離センターに勤務する医療従事者は140人、隔離センターのベッド数は120台です。医薬品等が不足するスーダンにおいて、医療従事者の身を守り、患者さんたちにより良い治療を届けるために活用されています。

ネットや電話の通じない地域

にも正しい知識の普及を

感染症に関する人材育成事業

スーダンでは、首都ハルツーム州内においても、郊外に出るとインターネットや電話が困難な地域が広がっています。そういった地域では、新型コロナウイルスや感染症に関する知識が普及しにくい環境にあり、取り残されやすい地域への普及が啓発が課題になっていました。

この度、取り残されやすい地域の1つであるハルツーム州シャルガニール地域ウッドアブサレ区に村落部を対象に、新型コロナウイルスを始めるための感染症に関する人材育成事業を実施しました。ウッドアブサレ区は、ロシナンテが巡回診療、診療所建設を実施し、現在もハファイル改修を行っている地域です。

それぞれの村の代表に 研修を実施

村内で正しい知識を有した人がいることが大変重要になるため、対象地域の村からそれぞれ代表を選出し、研修を行いました。研修を受けた代表は各村に戻り、地域住民に対して研修を行います。



シャルガニール地域の行政庁舎で

村の代表に向けて実施した研修には村の代表に加えて、対象地域の巡回診療に携わるスタッフも参加してくれました。研修後半のグループワークでは、男女問わず活発な議論が行われました。これから、各村でのワークショップを実施していきたいと思っています。

研修には左記のように幅広い内容が含まれました。

- 新型コロナウイルスを含む感染症に関する基礎知識
- 各種感染症の予防方法
- 心理的ケアの必要性
- 各村で研修を実施・報告するためのコミュニケーションや報告書作成方法について

実施後のアンケートによると、実施した12講座の中で満足度が高かった講座は、1位「新型コロナウイルスと呼吸器疾患の基礎知識と予防」、同列2位「黄疽が出る疾患の基礎知識」「交渉技術」でした。下痢症の講座については、特に雨季に村で流行するので勉強になったというコメントがありました。村での啓発活動に向けては、新型コロナウイルスについてしっかりと研修を実施したい、住民がきちんと理解できるように研修を行うつもりだなど、意欲的な意見が寄せられました。

子供たちの学びの場を守る学校事業 間もなく建設・改修に着手！ 学校事業の最新状況

遠回り26号で、北コルドファン州の学校の再調査を行ったことをお伝え

しました。対象の学校は小学校3校で、生徒数は約1200人、教員数は約20人です。たくさんの方の生徒が通うこれらの小学校ですが、現状はトイレや手洗い場などの衛生設備が整っていません。「学校にトイレがないため学校に行きたくない」「トイレに行けず授業に集中できない」という声も聞かれています。また、教室や黒板、机や椅子の老朽化も著しい状態です。

その後専門家と協力し、建設のための設計図や技術仕様書を作成しました。これらを元に、2022年1月から2月にかけて、現地パートナー団体のAORD、北コルドファン州教育省、NGO管轄省庁と共同し、建設業者選定のための入札を行いました。

現在、建設業者との最終調整の段階です。全体の工事期間は約6か月を見込んでいます。工事完了後には、生徒や教員に新しい校舎や手洗い場やトイレなどの衛生設備の使い方、学校の維持管理について研修を行う予定です。



研修実施中の診療所にやって来た17歳のプリティさん

11月10日の出産予定日を過ぎても赤ちゃんが生まれないとのこと、研修実施中の診療所にやって来た妊婦さんがいました。17歳のプリティさんです。予定日が過ぎていくことに加え、お腹や背中に痛みを感じ、余計に不安が増したそうです。エコー診断の結果、予定日が間違っており、新しい予定日は12月31日ということが分かりました。

また別の妊婦さんでは、赤ちゃんが双子でかつ逆子であることを、妊娠9か月にして初めて発見するという出来事もありました。

地域の妊婦さんたちからの期待

ムワブラ診療所では、産前健診において、トラウベ聴診器と呼ばれる伝統的な診断器具と触診のみで診察を行ってきました。しかし、妊婦さんや赤ちゃんの正確な情報を得るには相当な技術と経験が必要で、ムワブラ診療所の職員には判断が難しいことも多くありました。



健診の様子

5%未満だった健診受診率が90%以上に！

毎月受診することは妊婦さんにとって経済的な負担感があるため、ムワブラ診療所では妊娠3か月未満6か月、8か月以上の妊婦さんをエコー健診の主な対象としています。2022年1月初めから2月末までの間でエコー健診を受けるべきとされる妊娠時期の妊婦さんを対象に実施状況の調査を行ったところ、92%の妊婦さんが自ら進んでエコー健診を受けてくれました。研修時と同様に、9か月を超えても逆子のままの状態を見つかるなどの成果を上げることができています。

また、これまで産前健診に夫が一緒に来ることはほとんどありませんでしたが、エコー導入後には妊婦さんの夫が健診へ参加し、一緒にお腹の中の赤ちゃんの様子を見て、夫婦で談笑している様子も見受けられました。

他の医療施設にも

ムワブラ診療所は僻地の医療施設のため、医者は配属されておらず今

ムワブラ診療所の 出産を支える スタッフのザビアさん



完成したばかりのマザーシェルターの前に立っているのは、ムワブラ診療所でヘルプスアシスタントとして勤務しているザビア・モノさんです。2021年の12月にロシナンテスによるエコーの研修を受けました。

ザンビアの伝統的な価値観では、妊婦さんが妊娠していることを認識しても、ある程度胎児が大きくなるまでは母子健診には来ません。しかしムワブラ診療所にエコーを導入してから、妊娠3ヶ月以内に産前健診を受診する妊婦さんの数が明らかに増えました。今までより忙しくなりましたが、「今後もエコー健診を継続して実施し、母親たちの役に立ちたいです。」と話してくれました。



研修後の集合写真



今回の研修では、実践的な診断の練習に多くの時間を割き、ムワブラ診療所の職員だけでなく、妊婦さんと赤ちゃんの状態を知ることができるようになりました。

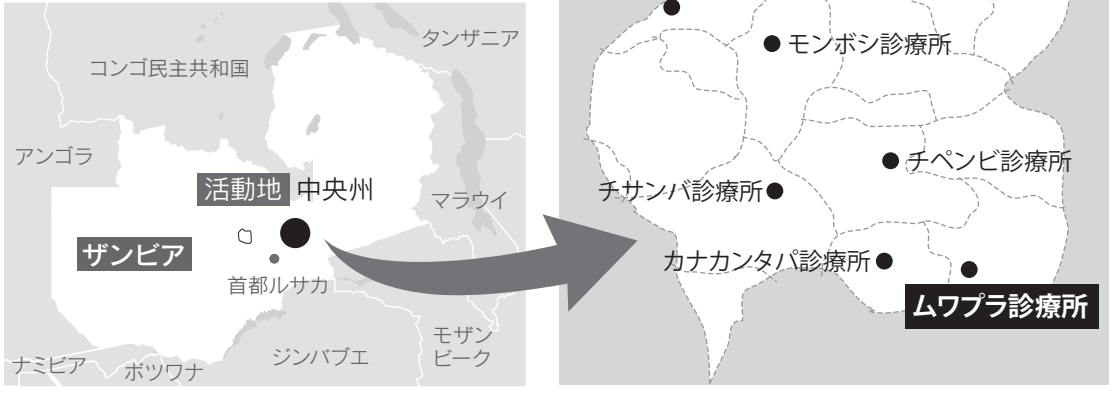
「しっかりと、でも優しくお腹に当ててください。そうしないと何も見えないですよ。」
「ここが胎盤です。この黒い部分が羊水です。まず胎児の位置を確認してください。どこが頭かわかりますか？」
講師の声に導かれながら、診療所の職員が大きく膨らんだお腹にエコー機を押しあて、画面を見ながら胎児の位置を確認していきました。



実際に見られる画面



講師が見守る中、実際にエコーを使用している様子



雲 外 蒼 天

1961年のヨーロッパを参考にした国民健康保険法改正により、すべての国民が何らかの公的医療保険に加入し、お互いの医療費を支え合うことで支払いのできない貧困層も医療サービスを受けやすくなる国民皆保険制度が始まりました。また、1973年の一県一医大構想により、当時医学部のなかった県への医学部または医科大学の設置が進み、国民皆保険制度と共に、医療へのアクセスが改善されました。

しかし世界に目を向けてみると、こうした環境は当たり前ではありません。世界銀行の統計によれば、世界人口73億人に対して、その50%の約36億人が基礎的な医療サービスを受けられていないとの結果があります。また世界保健機構(WHO)によると、「世界で毎年1億人が、医療健康サービスでの医療費で重い貧

困の状況に追いやられ」ています。アフリカの各国も医療に関しては様々な課題を抱えています。しかし、確実に状況は改善しています。ロシナンテスが活動する2か国の状況を紹介します。

ザンビアでは、2020年からNHIS(National Health Insurance Scheme)という国民健康保険サービスが開始されました。日本同様に、雇用者と被雇用者が加入者の基本給の1%ずつを負担することで加入でき、被雇用者の家族も条件を満たすことで加入することができま

ザンビアでは国公立病院の受診は基本無料、新しい保険サービスも

ザンビアで国民健康保険が始まったことで、精密検査(レ

ただし、こういった高度な医療サービスは全ての病院で行われるわけではなく、首都や一部の大きな町の病院での実施になります。

スーダンでも国公立病院の受診は基本無料、しかし国民健康保険の加入手続きの困難さがネックに

もう一つの活動国であるスーダンでは、首都のハルツム州都市部の国公立病院は、清潔で色々な設備が整っています。そしてザンビア同様、行政が運営する医療施設に限り、診療費、検査、手術、入院費等多くのサービスが無料で受けられます。医薬品に関しては、被保険者が一部自己負担で購入する仕組みです。



理事長川原も活動していたスーダンの公立病院「イブン・シーナー病院」



今回のインターンを通して民間団体が地域でその地域のひとと一緒に活動するという強みを知りました。大変貴重な、そして楽しい経験をさせていただきありがとうございました。

次には、ザンビア事務所インターンの寺岡春菜です。約5ヶ月間ザンビアでインターンをさせていただきました。その経験をもつて紹介します。

まず初めに、驚いた言語の多様さについてです。私が住んでいた首都ルサカの地域はニヤンジャ語とベンバ語、活動地のムワプラ地域はトンガ語というように使われている言語は1つではありません。ありがとを例にとってもジコモ(ニヤンジャ)、トウアウトテラ(ベンバ)、トウアルンバ(トンガ)と完全に言葉が異なります。写真は私のベンバ語のかわいい先生です。イカラ(座つて)と彼女の隣を叩きながら言っています。若干2歳にしてトリリンガルです。



日々ツラツラ日記⑩ 「ザンビアでの体験」



スカイが私のザンビアでの生活に、いろどりを加えてくれていることに間違いありません。駐在犬としての活躍をまたご支援者様にお話できることを楽しみにしています。

スカイが私のザンビアでの生活に、いろどりを加えてくれていることに間違いありません。駐在犬としての活躍をまたご支援者様にお話できることを楽しみにしています。



日々ツラツラ日記⑩ 「子犬がやっマきました！」

ザンビア駐在員の田中悠太です。11月にザンビアの我が家に新しい家族がやってきました。子犬のスカイです。友人から譲り受けました。今は生後半年です。

ザンビアでも犬を飼っている家庭がたくさんありますが、ペットというよりも、番犬のような存在になっていることが多いです。我が家の場合は子犬で人懐っこく、番犬にはなれそうもありません。好きなことは走る、食ベること。ザンビアにはドッグフードも売っていますが、ザンビア人の主食であるシマの方が喜んで食べているような気がします。さすがザンビア犬！また、雨の日は絶対に外に出たがりません。雨が降ってくると、すぐに屋根のあるところに避難します。ザンビアでは11月頃から3月までは雨季のため、毎日のように雨が降ります。そのため、なかなか思うように散歩に行ったり、外で遊んだりすることができず、気候が犬にまで影響を与えるのだと感じています。

も行いました。事前の調査と活動後の調査で、大きな変化を生み出すことができました。

●妊娠前定期健診の重要性を認識している／42%→80%
●母乳育児の大切さを認識している／24%→85%
SMAGを通じて地域の妊産婦さんたちの知識が改善されることで、母子の死亡率の改善に繋がる道筋ができております。またこうした研修機会は、ボランティアで献身的に協力してくれているSMAG自身のモチベーションを高めることにもつながります。



SMAGのメンバー
専門家による研修の様子



マザーシェルターで生まれた赤ちゃん

支え、支えられる—マザーシェルターに関わる人々

マザーシェルターが稼働し始めて約5か月。今回は、そんなマザーシェルターに関わる人々をご紹介します。

村落部に欠かせないボランティアのアグレイさん

マザーシェルターの多目的棟で撮影に応じたのは、15Kmほど離れた地域に住むヘルスボランティアのアグレイさんです。



この地域には、伝統的迷信が根強く残っています。「魔術にかかるので、生まれてすぐの赤ん坊は人前には出してはいけない」などといった話に事欠きません。自宅出産が減らない理由の1つでもあります。2006年以降、アグレイさんは軒ずつ家庭を回り、啓発活動を行ってきました。時には迷信を信じる夫や家族から抵抗されたこともありましたが、粘り強く話をし、医療施設での出産を促してきました。

3人目をマザーシェルターで出産したメリーさん

マザーシェルターの中で笑顔を見せてくれているのは、26歳のメリーさんです。過去3回の出産を別々の場所で経験しました。1人目は自宅、2人目は診療所、3人目はロシナンテスが建設したマザーシェルターでした。

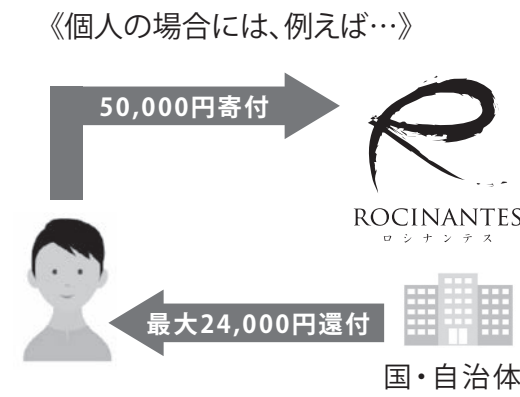
「1人目を産んだ時、誰もサポートしてくれませんでした。2人目を産んだ時は、経験のある職員がいてくれて心強かったです。でも、分娩室は共用で、プライバシーがありませんでした。分娩室が独立していて、出産後に十分に休める部屋が用意されていたマザーシェルターが一番快適でした。4人目はまたマザーシェルターで産みたいです。」と話してくれました。



保健指導の風景、左から2・3人目がSMAG

まずは前回認定日を含む5か年度(2016～2020年度)「実績判定期間」といいます。分の実績を記載した申請書その他を所轄庁へ提出し書類審査を受け、その後所轄庁の方が事務局にきての実態確認があります。

実態確認では聞き取り調査のほか、実際に書類・資料の確認もあるため、倉庫はもちろん更新手続きに関係するスタッフの周りにも書類BOXが積み重ねられ大騒ぎでした。



更新作業を通して、緊張感と誇りを新たに

更新を前提として日々の業務を構築してきたため全くの無防備という訳ではなく、多くの皆さま



最初認定を受けたときからではありますが、今回の一連の作業を通して、税制上の優遇措置という形で社会からご支援を頂戴しているということに対しての緊張感と誇りを新たにしました。引き続き公益性の高い組織であるよう、日々の努力を積み重ねていきます。

2021年秋、ロシナンテスは初めての認定NPO法人の認定更新手続きに臨みました。認定NPO法人には2012年から認定されていますが、途中法改正に伴う所轄庁の変更などがあったため認定更新は初めてでした。

ロシナンテスは、2012年1月16日から認定NPO法人としての認定を受けています。このたび認定資格の更新を無事に終えることができました。ご協力いただきました皆さま、そして日頃よりロシナンテスを支えてくださるご支援者の皆さまへ心より感謝申し上げます。

認定を受けた時点で5年後に更新がくることは分かっていたため準備万端で、と言えれば恰好いいのですが、現実はどうもいかず：準備には内部での打ち合わせから約1年半、所轄庁である北九州市との事前相談から数えても半年以上掛かりました。

日本の事務局とスーダンにいる川原理事長を結んでのオンライン聞き取り調査が行われるといったロシナンテスならではの一幕もありました。

認定NPO法人としての認定を更新しました

税制優遇とは、寄付をした個人が確定申告を行うことで、寄付額から2000円を引いた金額に対して、所得税が最大40%、住民税の控除が適用になる地域にお住まいの方は合わせて最大50%の寄付金控除が適用になるというもの。法人の皆さまにも、「特別損金算入限度額」が適用されます。



EVENT INFORMATION 国内イベント情報

2022年4月20日(水) スーダンの学校建設事業報告会【オンライン】

北コルドファン州の学校では、校舎の壁が数か所崩落していたり、黒板の老朽化が進み文字が読みにくくなっていたりと、様々な問題を抱えています。教室が使える場合も、子どもたちは猛暑の中ぎゅうぎゅうで授業を受けており、想像以上に厳しい環境です。現在こうした環境を改善すべく、学校の建設・改修事業を進めています。今回の報告会では、学校事業を中心に、スーダンで取り組む事業について、駐在職員がご報告します。

日時■2022年4月20日(水) 19:30開始/21:00終了
場所■オンライン(ウェブ会議ツールzoomを使用予定)
定員■90名 参加費■無料
申込URL■<https://forms.gle/aEeSTKGtdU3eaeJ88>



2022年6月18日(土) ※ご支援者様限定※2021年度活動報告会【オンライン】

2021年度に実施した事業について、また2022年度に実施を予定している事業について、皆さまにご報告する活動報告会を開催します。皆さまからのご支援がどのように現地に届いているのか、理事長川原及び各駐在職員からたっぷりお伝えできればと思います。

日時■2022年6月18日(土) 14:30開始/16:00終了
場所■オンライン(ウェブ会議ツールzoomを使用予定)
定員■70名 参加費■無料
申込URL■<https://forms.gle/k5DvNw95U4FstQBt7>
締切■2022年6月15日(水) 9:00



オンラインでのイベントを開催します。ぜひご参加ください！お申込フォームの利用が難しい方は、メールもしくはお電話でご連絡ください。

✉ メール info@rocinantes.org
宛先/info@rocinantes.org 件名/活動報告会申込
メール本文に以下の項目のご記載をお願いいたします。
・参加希望のイベント日付・お名前・メールアドレス・事前に聞きたいことなど

☎ お電話 093-521-6470
TEL:093-521-6470
認定NPO法人ロシナンテス(受付:平日10時～17時)

2022年4月24日(日) 設立から未来まで。ロシナンテス講演会【オンライン】

ロシナンテスは、理事長の川原が外務省の職を辞し、2005年に立ち上げたNGOです。当時外務省の医務官として赴任した内戦中のスーダンでは、多くの子どもが命を落としていました。しかし医務官として赴任している以上、日本人以外を診察することは許されていませんでした。そんな状況においても診察が許されないもどかしさに、官僚としての限界を痛感。目の前で苦しむ人に手を差し伸べたい！と、外務省を辞職し、現地の人々のために活動することを決意しました。これまで15年以上にわたり、医療施設のない村々を回って医療を提供し、国や地域と協力しながら診療所をつくり、給水所の整備や学校建設、栄養改善など、包括的な保健事業を整備することで、現地の人たちだけで医療を継続できる仕組みづくりをしてきました。本講演会では、外務省を辞すことになった経緯をはじめ、設立から現在まで行ってきたロシナンテスの活動内容や、新しく始めたザンビアでの事業についてなど、長年現地に身を置いて活動してきた川原が直接皆さまにお話します。

日時■2022年4月24日(日) 11:00開始/12:30終了
話者■NPO法人ロシナンテス 理事長 川原尚行
場所■オンライン(ウェブ会議ツールzoomを使用予定)
定員■90名 参加費■無料
申込URL■<https://forms.gle/6ZZpozUFGdWqJR888>



《イベントレポート》 ザンビア&スーダン報告会

《ザンビア活動報告会レポート》 「ここで産みたい」と思える診療所を目指して

《スーダン活動報告会レポート》 水の汚染と水量不足を改善するために

2021年12月17日、ザンビア活動報告会がオンラインにて開催されました。チサンバ郡ムワラ地域におけるマザーシエルトー建設完了のご報告を中心に、エコーの導入やボランティアの育成などザンビアでの母子保健事業についてお話ししました。

2022年2月17日、スーダン活動報告会がオンラインにて開催されました。現在取り組んでいる水事業を中心に、学校事業や新型コロナウイルスの対策支援事業についてもご説明しました。

ご参加いただいた皆さまからの質疑応答について一部ご紹介します。

Q 出産 10日前からシエルトーに、ということですが、何日も家を空けることは大変なことだろうと思います。妊婦定期健診ができないなどの理由で出産予定日があまり正確に予測できないということでしょうか？

Q 給水設備は現地に引き渡すとのことですが、機械設備・電気設備と維持には技術がいるものと想像します。大きなトラブルなく運営はされていますでしょうか。また、何かトラブルが起きたら適宜サポートをされるのでしょうか。

Q 夫があまり協力的でないなどの理由で家を空けることが難しいという妊婦さんもうつやいます。施設分娩の重要性の認識は浸透しつつあり、今後もSMAGによる知識提供や医療従事者による指導を継続していく予定です。

Q ハフイルに溜まった雨水が蒸発したり地下に浸透する前に貯水槽に貯水したりする様な取り組みもあるのでしょうか？

Q 出産予定日は、あくまで統計学的な出産までの期間をもとに算出されたものです。経産婦(初産婦に比べ出産予定日が早いとされる)が多いこともあり、予定日の10日前から待機することのできる体制を整えています。

Q 浄水した状態の水を貯めるタンクは設置予定ですが、雨水の状態で貯水するタンクの設置は予定していません。今回の改修では、面積を小さめに深く掘削するエリアを新設することによって、雨水の蒸発を減らし、年間を通して十分な水量が確保できる形を目指しています。

Q マザーシエルトーは予約制ですか。受け入れ期間は出産予定日をもとに診療所が決定しています。

Q 給水設備、特に取水部分の故障や不具合はどうしても起こってしまうため、水管理委員会がきちんと管理をし、水代を徴収して修理代などを捻出していくようにする予定です。修理や部品の交換などもスーダン国内で完結できるよう配慮をして建設をすることで、問題が起きて水管理委員会に対処可能な状態にすることを目指しています。

『寄付金控除』とは？…所得税などが減税されます…

個人でご寄付の場合

【個人所得税の寄付金控除】
「税額控除」または「所得控除」のいずれかが選択適用できます。

※ 税額控除
{(認定NPO法人への総寄付額－2,000円)×40%}を所得税額から控除

※ 所得控除
(認定NPO法人への総寄付額－2,000円)を総所得額から控除
※年間寄付額や所得税率などによって有利な選択が異なります。詳しくは税務署等にご相談ください。

【個人住民税の寄付金控除】
寄付者がお住まいの都道府県または市区町村が条例で指定した認定NPO法人等に寄付した場合に適用されます。
※お住まいの都道府県または市区町村にご確認ください。

※これらの適用を受けるためには、確定申告の際にロシナンテス発行の「領収書」が必要です。

法人でご寄付の場合

一般のNPO法人等に寄付した場合の「一般損金算入限度額」とは別枠の「特別損金算入限度額」が適用されます。なお、寄付総額が「特別損金算入限度額」を超える場合には、その超える部分の金額を「一般損金算入限度額」に算入することができます。詳しくは税理士等にご相談ください。

相続、遺贈によるご寄付の場合

相続税の申告期限内に当団体へご寄付いただいた場合、寄付をした財産には、相続税が加算されません。詳細はウェブサイトをご確認いただくか、専用のパンフレットをご請求ください。